

評価判定と現在の取り組み状況

	評価項目	評価判定		現在の取り組み状況	評価委員 判定
		保護者	保育者		
1	園の保育理念や目標などについて説明を受けている	A	A	入園のしおり《重要事項》説明会や入園・進級式の際に概要を説明している。	A
2	子どもは喜んで城西子ども園に通っている	A	A	「みんなにとって楽しい園であるように」を園の目標としながら、毎月の園内研修等、各自の努力が見られる。 1歳児は月齢で2つの小グループにわけ、細やかな配慮を心掛けた。	A
3	子どもの発達や興味、関心に応じた保育がなされている	A	A		A
4	子どもの個性を大切に、意欲や自信をもたせる工夫をしている	A	A		A
5	園は絵本に親しむ環境が整備され、言葉への関心やイメージの世界が広がっている	A	A	各クラス絵本の読み聞かせに力を入れている。	A
6	子どもは運動会やお遊戯会などの園行事に喜んで参加している	A	A	4月に行事の見直しを行い、子どもに負担がかからようと心掛けた。	A
7	園は安全、衛生、清潔に配慮された環境が整えられている	A	A	園内研で安全チェックリストやクラスハザードマップ等も作り、今年度全てのマニュアルの見直しを行った。	A
8	園は防災の日の訓練や交通安全教室等を通して、安全・防犯に努めている	A	A	火災、地震、津波、風洪水、不審者等の避難訓練を月一度。毎月の消火訓練。年2回の交通安全教室等を行っている。	A
9	園は感染症の発生状況を必要に応じて知らせ、感染拡大予防に努めている	A	A	感染症と診断があったものを感染症情報として玄関に掲示している。	A
10	園やクラスの状態を、園便り、クラス便り、ホームページなどで知らせたり、写真やマップ等を使って保育が見えるように努めている	A	A	城西だより、クラスだより、ホームページ。又行事や生活、遊びの場面の写真を掲示したり編集してテレビ画面を通して伝えたり、あるいはウェブマップで日々の保育を記録し掲示するなど、いろいろな方法を試行錯誤している	A
11	送迎時や連絡帳を通じ、子どもの様子について情報交換している	A	A	未満児は密な交換を心掛けているが、以上児は担当人数が多くなりこまめな連絡帳は難しくなるができるだけ対話をしようと努めている。	A
12	園行事は保護者や地域の人が参加しやすい工夫がされている	A	A	なるべく要望に応えようとしているが、保育者の勤務状況もあり、日曜日の開催などには難しい面もある。	A
13	園は、保育参加や育児講座など、親育ち子育ての場に取り組んでいる	A	A	年に2回の保育参加と育児講座、年長児の保育参観と講座、親子であそぼう会などを行っている。	A
14	保護者から寄せられた意見や要望について誠意ある対応をしている	A	A	できる限りの対応を心掛けている。	A
15	園は、子どもが給食や食べ物に興味関心を持つような取り組みをしている	A	A	じゃがいもや野菜の栽培・収穫やさつまいも・いちごの収穫を通して、また、それらを使ってジャムやピザ、焼き芋作りにも取り組んだ。園内研修では「食べ物の動きを子どもに伝えるために」を話し合い子どもが食材の動きを考えるための表をつくった。	A
16	園は、保護者に園の給食やおやつを知ってもらおう機会を設けている	A	A	毎月の献立予定表、ホームページのほか、保育参加等の後に食事を提供する。また、ブックカフェでお茶の時間にはおやつを提供するなど、年4の給食、月1度のおやつを試食会を行っている。	A

	評価項目	評価判定		現在の取り組み状況	評価委員 判定
		保護者	保育者		
17	保育者は保護者と連携をとりながら離乳食やアレルギー食を進めている	A	A	職員間でもアレルギー個人ファイルを作るなどして誤食などが無いように、また万一の場合の対策などの共通理解を図るようにしている。	A
18	保育者は、這う、立つ、歩くなどの行動が自由に取れる環境を整えている	A	A	8・9月の園内研修では乳児保育の視点から「ていねいな保育ってなんだろう」を保育者間で対話した。	A
19	保育者は優しく声を掛けたり、スキンシップをとったりしながら子どもたちに接している	A	A		A
20	保育者は、散歩に出かけたり、戸外遊びを行ったり、外気に触れたり自然に触れる機会を取り入れている	A	A		A
17	保育者は子どもが心に思ったことや感じたこと、考えたことを、言葉や歌やダンス、描いたり作ったり等で自由に表現できる環境を用意している	A	A		幼児教育の視点から行った園内研修では、5歳児の保育の記録を分析、3つの柱、10の姿からみえてくる学びの育ちを見つめた。
18	保育者は生活や遊びの中で、して良いことや悪い事、ルールがある事、自分も友だちも大切な事等、子どもの道徳心や規範の芽生えを育てている	A	A	A	
19	異年齢の関わりの中で、文化や伝承や思いやりの心などが育っている	A	A	これまで長い間クラスを異年齢編成とし生活の基盤にしていたが、今年度より子ども園が年齢別を基本とすることから異年齢で過ごす時間が以前に比べると少なくなった。	A
20	子どもは家庭で園や友だちの事をよく話す	A	A	保育参加が共通の話題の1つになればいいと思う。	A
21	小学校(小学生)との交流の場を設けたり、小学校への学びを繋ぐため「10の姿」を意識した教育・保育に取り組んでいる	A	A	じゃがいもの収穫時や卒業おめでとう会で小学生を招き交流を図り、小学校からは3年生が来園交流会、体験入学等がおこなわれたほか、連絡会や保育参観等が行われた。保育参観の折には先生方との10の姿の共通理解のための研修の場が設けられた。	A
22	子どもが主体的な活動や豊かな体験ができるような遊びの環境や援助の仕方に工夫をしている	A	A	折に触れこのテーマには模索を重ねている。今年度も4月の園内研修で「計画、主体性、環境構成の関係性」について考えた。	A
23	保育の振り返りを行い改善に心掛けている	A	A		A
24	園内・外の研修に積極的に参加し、質の向上に努めている	A	A	キャリアアップの為に研修会を始め、各自1回以上の外部研修に参加できるよう、また、園内研修については毎月夜7時から10時間で職員会議終了後を研修の時間としている。園内研の研修内容は各セッションチーフが中心となりすすめている。	A

《評価判定対象者》

- 1～16 共通  
17～20 未満児保護者・未満児保育者  
17～21 以上児保護者・以上児保育者  
22～24 未満児保育者・以上児保育者

《評価の観点》

- 教育・保育の基本  
教育・保育の内容と質の向上  
保健・環境  
食育  
連携《保護者・地域・小学校》